

オリンパス株式会社

どこで、誰が、誰と仕事をしているかを一目で把握 新グローバル本社を舞台とする変革を加速

新グローバル本社を舞台に働く環境と働き方の変革を進めているオリンパス。変革を支える仕組みとして、従業員がどこで仕事をしているかを可視化する仕組みを構築しました。活用しているのは Cisco Spaces。フリーアドレスでのスムーズなコミュニケーション、部門間交流の活性化、脱サイロ化などを期待しています。



オリンパス株式会社

所在地
東京都八王子市石川町 295 1

設立
1919 年（大正 8 年）10 月 12 日

連結従業員数
28,838 人（2024 年 3 月末現在）

「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」をパーパスに掲げるオリンパス。事業を大きく変革した同社は、現在、長い伝統を持つ光学機器メーカーからヘルスケア業界に専心するグローバル・メドテックカンパニーへと進化。病変の早期発見、診断、低侵襲治療に役立つソリューションサービスを提供し、対象疾患における医療と価値創造に取り組んでいます。

課題

- ・フリーアドレスにおいて、誰がどこにいるのかを把握し、スムーズにコミュニケーションを取りたい
- ・目指す脱サイロ化がどれくらい進んでいるかを把握したい
- ・いつ、誰が利用しているかまで設備の利用状況を把握し、最適な運用に役立てたい

ソリューション

- ・ シスコ ネットワークスイッチ
- ・ シスコ無線 LAN ソリューション
- ・ Cisco Catalyst Center
- ・ Cisco Spaces

結果

- ・ 相手がどこで仕事をしているかを把握し、スムーズにコミュニケーションを行える
- ・ スペースに集まっている人を部門別に集計し、部門間交流の状況を把握できる
- ・ 設備の利用状況を詳しく把握し、レイアウト変更など適切な手を打っていける

今後

- ・ 変革を加速し、さらなる脱サイロ化などを目指していく

部門最適化を打破する
脱サイロ化に向けて
重要な一歩を踏み出しました

鈴木 和博 氏

オリンパス株式会社
インフォメーションテクノロジー
インフラストラクチャ & サービスデリバリー

課題

イノベーションや価値創造のための働く環境を整備

現在、オリンパスは、健やかな組織文化を目指し、従業員一人ひとりがベストな状態でパフォーマンスを発揮できる環境の実現を目指しています。その一環として2024年4月に本社機能を従来の東京都新宿区から東京都八王子に移転。本社機能とマーケティング、製造・開発などの事業関連機能を「八王子事業場 石川」に集約させ、同拠点を新たに「グローバル本社」と決めました。

グローバル本社では、同社の従業員が時間や場所にとらわれることなく働くための環境整備が進んでいます。テーマは、部門ごとの個別最適化を解消する脱サイロ化、自律的な働き方の実現、そして、コラボレーションの加速など。これらを通じてオリンパスと従業員のエンゲージメントと生産性を向上させ、それをイノベーションや価値の創造につなげたいと考えています。

具体的には、オフィスとリモートのハイブリッドな働き方を推進するために個人席を止め、フリーアドレスを採用。「また、以前は部門ごとにスペースを割り当て、部門ごとに運用していた会議室などの設備も全社で共有し、誰でも使えるようにしています。ある部門の会議室はいつも予約がいっぱいなのに、ある部門の会議室には余裕があるというような状況が散見されていたためです。まさにサイロ化の弊害です。会議室だけでなく、集中して作業を行いたいときに使う個人ブース、研究開発で利用する研究室なども同じ考えのもと、全社で共有しています」とオリンパスの鈴木和博氏は言います。

このような取り組みを加速させるために、会社には活用したいデータがありました。誰が、どこで仕事をしているのか——。PCの位置情報データです。

「グローバル本社には、約6500人の従業員が在籍することになりますが、ハイブリッドワークでは、そもそもオフィスにいない可能性がある上、フリーアドレス制ですからオフィスに来ていても決まった場所にいるとは限りません。そうした中で必要な相手とスムーズにコミュニケーションを取

れるようにするには、相手がどこにいるのかを知ることができる仕組みが必要です。また、オフィスの設備やスペースを適切に運用するためにも、どの設備が誰によってどれくらい使われているか、どこにどれくらい人が集まっているかなどを把握したい。PCの位置情報を利用すれば、それが可能になるのではと考えました」と鈴木氏は言います。

シスコのネットワークと Cisco Catalyst Centerを 有効活用できる Cisco Spacesを選択

ソリューション

無線 LAN アクセスポイントを通じて位置情報を把握

従業員の位置情報をどのように収集するか。同社は、様々な方法を検討しました。「調査するとGPSを利用するものなどがありましたが、そのための専用機器やシステムを導入しなければならず、費用が高額となる点がネックでした」と鈴木氏は言います。

そこで、採用したのがCisco Spacesです。

「Cisco Spacesは、無線LANアクセスポイントを通じてPCの位置情報を把握する仕組み。もともとオリンパスは、LANおよび無線LANにシスコのネットワーク製品を採用していた上、Cisco Spacesの運用に必要なCisco Catalyst Centerも導入していました。既存のインフラを有効活用し、最小限のコストで導入できるのでから活用しない手はない。そう考えてCisco Spacesの導入を決めました。Cisco Catalyst Centerは、もともと現地での手作業が前提だったネットワーク機器の運用をリモートおよび集中管理にシフトし、ネットワーク運用を効率化するために導入していたのですが、それが功を奏しました」とオリンパスの小貫昌幸氏は言います。

グローバル本社は、Microsoft 365をはじめとする多様な

システムの情報を集約し、会議室の検索や予約、トイレの空き状況の可視化などを統合的に行える内田洋行の SmartOfficeNavigator を導入しており、ここに位置情報も統合したいと考えていました。「それに対しても Cisco Spaces が API を通じて SmartOfficeNavigator と連携可能なことを確認でき、安心して導入を決めることができました」と鈴木氏は述べます。

結果～今後

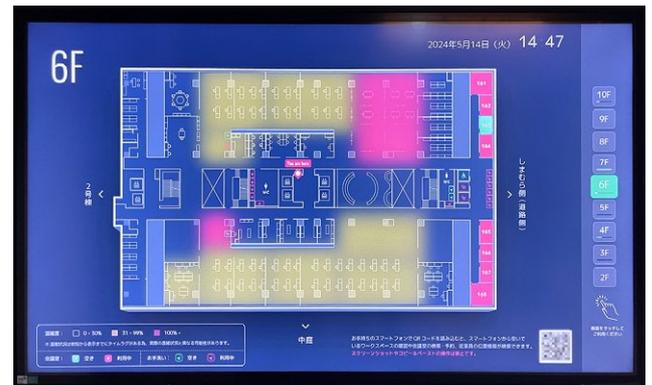
部門をまたいだ交流の状況も把握

オリンパスのグローバル本社の工事や従業員の移動などは、長期的な計画の基、数年がかりで進める予定ですが、Cisco Spaces による位置情報把握の仕組みは、すでに

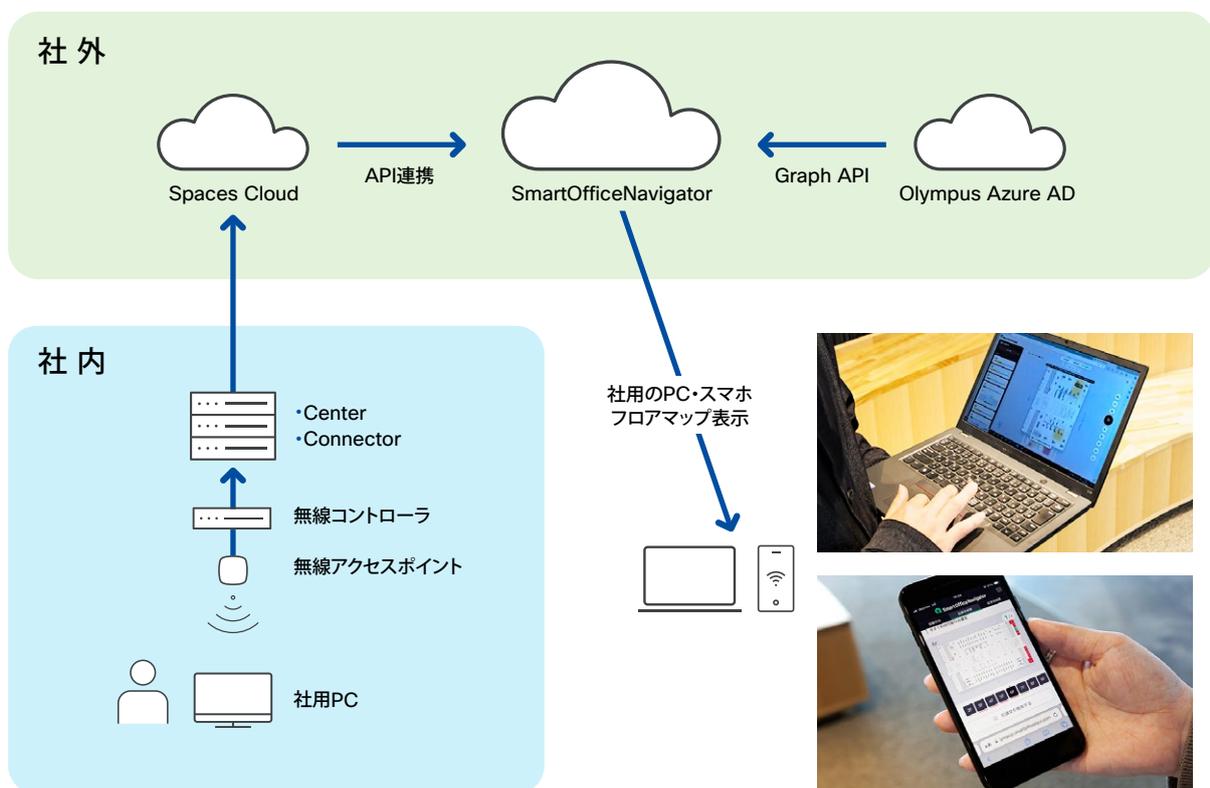
稼働を開始しています。

「従業員は、スマートフォンやPCで SmartOfficeNavigator を立ち上げ、名前などで検索を行えば、その人が今、オフィ

SmartOfficeNavigator 画面



Cisco Spaces を活用した仕組み



スにいるか、どの辺りで仕事をしているのかをすぐに知ることができます」(小貫氏)

また、誰が、いつ、どこで、誰と働いているか、蓄積したデータを集計することで、オフィスの使い方などを可視化することも可能。「例えば、ある人やチームが設備を独占してしまっている状況がわかれば、使い方について適切な指導を行ったりすることができます。なかなか人が集まらないスペースがあれば、原因を探り、レイアウト変更などの手を打つこともできます。さらに誰と誰が働いているか、どんな人がどこに集まっているかを把握することは、異なる部門間の交流が活性化しているか、つまり脱サイロ化がどれくらい進んでいるかの目安にも使えます」と鈴木氏は説明します。

データを活用する上では、プライバシーに配慮しています。「プライバシーへの配慮は、データを活用する上で非常に重要なことです。例えば、部門間交流を解析する際は、個人を特定せずに属性データだけを使うように設定しています。また、PCの位置情報も、オリンパスのプライバシーポリシーに対応し、データ形式を不規則な文字列に変換するなどの対応を行っています」(鈴木氏)。

トラブル発生時にはログ解析で解決を支援

Cisco Spaces と SmartOfficeNavigator を API 連携させるために、内田洋行と直接やり取りをして技術情報を提供するなど、シスコは内田洋行とも連携しながら、導入支援を行いました。実際の導入作業は、シスコのパートナーである都築電気が担当しましたが、それも非常にスムーズに進みました。

「シスコは、ICT 業界において存在感のある企業ですから、内田洋行をはじめ多くの企業とすでにコネクションを持っています。何かあったときには、その関係を活かし、各社と連携しながら適切なサポートを行ってくれるという安心感があります。実際、位置情報が画面に表示されないトラブルが発生したことがあったのですが、その際も内田洋行と原因の切り分けを行った上で、シスコの無線 LAN アクセスポイントのログを解析し、対応してくれました。シスコの対応力に感謝すると同時に、このような対応が行えたのはインフラとアプリケーションがシスコで統一されていたからこ

そ。シスコの機器で構築していた既存のネットワークを有効活用したメリットを改めて感じました」(鈴木氏)

このようにオリンパスは、グローバル本社を舞台に、働く環境と働き方の2つを軸とする変革を着々と進めています。「グローバルな事業展開を重視しているオリンパスにとって、グローバル企業であるシスコは必要不可欠な存在。CLIのような以前から続く機能も軽視することなく新しい製品に継承されている上、今回、導入した Cisco Spaces のように、そのインフラを活かした新しいソリューションを開発し、提案してくれる。安心して使い続けることができます」と小貫氏はシスコに対する評価を述べます。シスコは、様々なソリューションを通じて、これからも同社の変革を支援していきます。



オリンパス株式会社
インフォメーションテクノロジー
インフラストラクチャ&サービスデリバリー
鈴木 和博 氏



オリンパス株式会社
インフォメーションテクノロジー
インフラストラクチャ&サービスデリバリー
シニア インフラストラクチャ エンジニア
小貫 昌幸 氏

OLYMPUS

世界をリードするグローバル・メドテックカンパニーとして、医療従事者の方々と共に、病変の早期発見、診断、そして低侵襲治療に役立つ最適なソリューションサービスを提供。世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を目指す。

URL <https://www.olympus.co.jp/>

製品 & サービス

- ・シスコ ネットワークスイッチ
- ・シスコ無線LANソリューション
- ・Cisco Catalyst Center
- ・Cisco Spaces